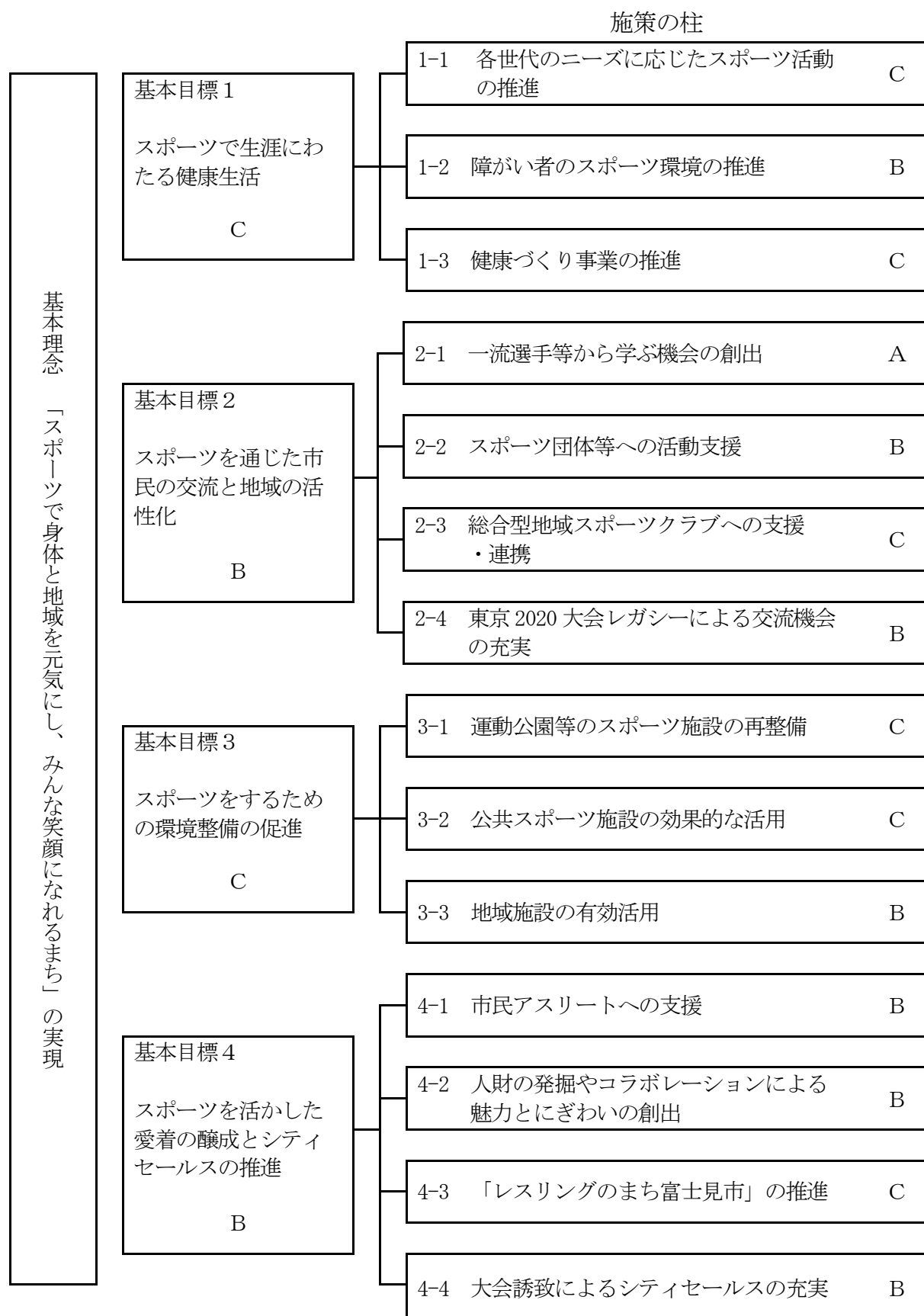


第 2 期富士見市スポーツ推進計画の評価

基本理念・基本目標・事業内容の評価

A：優れて順調 B：順調 C：概ね順調 D：やや遅れている E：遅れている



【基本目標 1】 スポーツで生涯にわたる健康生活 C

●指標 (KPI)

「週 1 回以上スポーツをする人の割合」

現状値：42.9% (R2) ⇒ 目標値：50.0% (R8) 最新値：32.0% (R7)

1-1 各世代のニーズに応じたスポーツ活動の推進 C

●指標 (KSF)

「スポーツをすることが好きという割合」

現状値：73.4% (R2) ⇒ 目標値：80.0% 最新値：53.5% (R7)

●評価

子どもスポーツ大学、各種体験教室、市民スポーツ大会、健康増進スポーツ大会、スポーツフェスティバル、Fujimi シティマラソン、地区事業、地区体育祭など、子どもから成人・高齢者まで幅広い世代を対象に事業を実施。

一方で、アンケート調査結果では、スポーツが<好き>と回答した一般市民の割合は5割程度であり、強い拒否感はなくとも、積極的な関心も形成されていない層が2割半ばとなっている。

●課題

スポーツに対して無関心層への波及、高齢者も参加できる健康づくり事業、交流の機会として気軽に取り組める内容の充実が必要。

1-2 障がい者のスポーツ環境の推進 B

●指標 (KSF)

「障がい者スポーツを体験したり見たりしたことがある人の割合」

現状値：67.6% (R2) ⇒ 目標値：75.0% (R8) 最新値：59.1% (R7)

●評価

ボッチャ市民交流大会、ボッチャ体験教室、心のバリアフリー研修、車いすハンドボール、車いすバスケットボールなど、障がい者スポーツの体験・理解促進事業を展開し、福祉施設や特別支援学校等との連携も行った。

●課題

周知や参加促進の取組を強化し、施策効果の向上を図る必要がある。

1-3 健康づくり事業の推進 C

●指標 (KSF)

「健康づくり事業（ヘルシーウォーク、ラジオ体操教室、パワーアップ体操等）の参加者数」

現状値：953人 (R2) ⇒ 目標値：2,000人 (R8) 最新値：1,777人 (R7)

●評価

ヘルシーウォーク大会、パワーアップ体操、地区事業など、健康づくりに資する事業を実施されている一方で、各分野との連携による健康増進事業の展開とICTを活用した健康づくり事業の推進は、進捗が芳しくない。

●課題

ICT等の新たな手法の導入や多分野との連携による健康増進事業の取組の多様化を進め、より効果的な事業推進を図る必要がある。

【基本目標 2】 スポーツを通じた市民の交流と地域の活性化 B

●指標 (KPI)

「スポーツを通じて、他者とのつながり、交流を実感した経験があるという割合」

現状値：— ⇒ 目標値：50.0% (R8) 最新値：22.9% (R7)

2-1 一流選手等から学ぶ機会の創出 A

●指標 (KSF)

「一流選手等から学ぶ体験教室や子どもスポーツ大学等での講義回数」

現状値：5回 (R3) ⇒ 目標値：12回 (R8) 最新値：9回 (R7)

●評価

大崎オーソル埼玉、埼玉上尾メディックス、埼玉西武ライオンズなど、企業・プロスポーツチーム等との連携を進め、一流選手や指導者と市民が交流する機会の創出を図った。また、子どもスポーツ大学についても継続的に実施し、子どもたちが多様な競技や講師に触れる機会を確保した。

●課題

連携協定を締結した団体等との関係を活かし、体験教室や講義、観戦機会、交流イベントなどをさらに充実させることが必要。

2-2 スポーツ団体等への活動支援 B

●指標 (KSF)

「スポーツフェスティバル、健康増進スポーツ大会の参加者数」

現状値：1,948人 (R2) ⇒ 目標値：8,000人 (R8) 最新値：7,440人 (R7)

●評価

スポーツ協会やスポーツ推進委員連絡協議会等への支援を通じて、市民スポーツ大会、健康増進スポーツ大会（4,000人を超える参加者）、スポーツフェスティバル（3,000人を超える参加者）、地区事業、地区体育祭など、地域に根ざしたスポーツ活動の支援を実施。

●課題

参加者や担い手が固定化しないよう、若年層や子育て世代をはじめとした幅広い世代の参加を促す取組が重要。

2-3 総合型地域スポーツクラブへの支援・連携 C

●指標 (KSF)

「総合型地域スポーツクラブ延べ参加者数」

現状値：1,800人 (R3) ⇒ 目標値：5,000人 (R8) 最新値：8,073人 (R6)

●指標の分析・課題

学校体育施設開放に関する情報の提供や、指定管理者との連携による事業開催など、総合型地域スポーツクラブへの支援・連携に取り組んだ。

●課題

参加実績の伸びを踏まえつつ、支援・連携の継続。

2-4 東京2020大会レガシーによる交流機会の充実 B

●指標 (KSF)

「東京2020大会レガシー事業の実施回数」

現状値：4回 (R3) ⇒ 目標値：6回 (R8) 最新値：4回 (R7)

●評価

セルビア共和国デフハンドボールチームの事前キャンプや交流試合、ボッチャ体験教室、車いすバスケットボール、車いすハンドボール、富士見 TOP サポーターの活用など、東京2020大会のレガシーを活かした交流事業に取り組みました。

●課題

共生社会の推進、障がい者スポーツの普及、ボランティア人材の育成に結びつけていくことが必要。

【基本目標3】 スポーツをするための環境整備の促進 C

●指標 (KPI)

「市内のスポーツをする施設が「充実している」という割合」

現状値：19.6% (R2) ⇒ 目標値：30.0% (R8) 最新値：14.5% (R7)

3-1 運動公園等のスポーツ施設の再整備 C

●指標 (KSF)

「スポーツ施設の再整備計画の策定数」

現状値：0か所 (R3) ⇒ 目標値：1か所 (R8) 最新値：1か所 (R7)

●評価

市民総合体育館におけるバリアフリー化の推進や、多目的屋外スポーツ施設整備に係る基本計画の策定など、スポーツ施設の再整備に向けた取組を進めた。

●課題

老朽化対応や市民総合体育館以外のスポーツ施設におけるバリアフリー化を計画的に進め、利用者の安全性・快適性を高めていく必要がある。

3-2 公共スポーツ施設の効果的な活用 C

●指標 (KSF)

「市内公共スポーツ施設でスポーツをしている割合」

現状値：22.4% (R2) ⇒ 目標値：40.0% (R8) 最新値：27.9% (R7)

●評価

学校体育施設開放などにより、市民が日常的にスポーツ活動を行う場の確保に取り組んだ。また、予約システムによる抽選機能及びクレジットカード決済を導入し、施設利用手続きの利便性向上を図った。

施設の維持管理や利用手続きの改善には一定の進捗が見られるものの、公共スポーツ施設の利用拡大には十分結びついていない状況。特に、施設情報の提供については、様々な方法を活用しているものの、利用者にとって分かりやすく、利用につながる情報発信の充実が課題となっている。

●課題

事業情報等を分かりやすく発信し、公共スポーツ施設を利用する市民の裾野を広げていく必要がある。

3-3 地域施設の有効活用 B

●指標 (KSF)

「市内公共施設でスポーツをしている割合」

現状値：46.1% (R2) ⇒ 目標値：55.0% (R8) 最新値：51.9% (R7)

●評価

市民総合体育館や運動公園、公民館等の地域施設を活用し、スポーツ活動の機会を提供した。また、上南畑産業団地内にボールの投げられる公園を設置したほか、びん沼自然公園にランニングコースやマシン器具を整備するなど、身近な場所で気軽に運動できる環境づくりを進めた。

●課題

学校、公民館、公園、広場等を活用した事業展開をさらに進めるとともに、事業の周知による認知の拡大。

【基本目標 4】 スポーツを活かした愛着の醸成と シティセールスの推進 B

●指標 (KPI)

「富士見市はスポーツの推進が「図られている」という割合」

現状値：24.2% (R2) ⇒ 目標値：40.0% (R8) 最新値：22.3% (R7)

4-1 市民アスリートへの支援 B

●指標 (KSF)

「指導者養成講座の参加者数」

現状値：36人 (R3) ⇒ 目標値：100人 (R8) 最新値：61人 (R7)

●評価

全国的大会等への出場者に対する奨励金については、予算を上回る申請件数が見られるなど、支援ニーズは高い状況。また、交付式や結果報告会を行った選手等を広報で周知し、市民アスリートの活躍を市民に伝える取組も行った。

●課題

市内の競技者を支える指導者や支援者の育成については、さらなる充実が必要。また、奨励金による支援の拡大に加え、指導者養成講座の内容充実や参加促進を図り、競技活動を地域全体で支える環境づくりを進める必要がある。

4-2 人財の発掘やコラボレーションによる魅力とにぎわいの創出 B

●指標 (KSF)

「市民アスリートを講師とした体験教室の開催数」

現状値：— ⇒ 目標値：3回 (R8) 最新値：4回 (R7)

●評価

奨励金の交付や広報による周知を通じて、市内で活躍するスポーツ選手の発掘・発信に取り組んだ。また、市民アスリートを講師として、子どもスポーツ大学、指導者養成講座、各競技体験教室等を開催し、市民が身近にスポーツ選手と接する機会を創出した。目標を達成しているため、こうした取組を一過性の体験教室や広報にとどめず、地域のにぎわい創出や競技人口の拡大、まちへの愛着醸成につなげていくことが重要。

●課題

市民アスリートの活躍をより効果的に発信するとともに、体験教室等を通じた継続的な交流機会を創出。

4-3 「レスリングのまち富士見市」の推進 C

●指標 (KSF)

「市内スポーツ施設を会場としたレスリング大会の開催数」

現状値：2回 (R3) ⇒ 目標値：6回 (R8) 最新値：3回 (R7)

●評価

「レスリングのまち富士見市」を推進するため、全国大会を毎年市内で開催するとともに、大会開催に合わせて体験教室を実施してきました。体験教室では、オリンピックメダリスト等が講師を務め、市民が高い競技力に触れる機会を提供した。

●課題

大会誘致に加え、初心者向け体験教室、学校や地域との連携、競技団体との協力を強化し、レスリングを市の特色あるスポーツ資源として定着させていく必要がある

4-4 大会誘致によるシティセールスの充実 B

●指標 (KSF)

「全国大会やプロスポーツの誘致数」

現状値：3回 (R3) ⇒ 標値：6回 (R8)

最新値：13回 (R7)

●評価

大崎オーソル埼玉、埼玉上尾メディックス、埼玉西武ライオンズとの連携や、レスリング、セパタクロアの大会誘致に取り組んだ。

●課題

市民総合体育館でのPR資料の配置に加えた市の認知度向上や地域のにぎわい創出に向けて効果的に活用が必要。